

「神のことばに従う」

マルコ8：31～33

■ どちらを選んで生きるか

人は、現行のシステムがもたらす悪弊に思いをいたすよりも、システムのルールを見抜いてその中で「うまくやる」ことを考えます。過去の歴史は、時代、時代に支配的だったシステムが悪とされ変化させる力によって世界は変えられてきた側面もあります。現在のすべてのシステムも、いずれ、より良いシステムにリブレースさせられるべきです。仮にそのように考えると、究極的には世の中には次の2つの生き方があるということになります。

①現行のシステムを上限として、その中でいかに「うまくやるか」について、思考も行動も集中させる、という生き方

②現行のシステムを所与の（そのまま受け入れる）ものとせず、そのシステム自体を良きものに変えていくことに、思考も行動も集中させる、という生き方

変化は人にとってストレスです。しかし今正しいと言われていることも歴史を振り返ればその時は間違っていると言われきました。ですからそれを変化させていくことにより世界は変えられて来たということが分かります。だからこそこの②の様に、神様が言っていることを聞いて、より良くしていく必要があるのです。

■ 言葉 神の言葉

言葉、神の御言葉は「ダーヴァール」です。同じ綴りで、「デヴェル」と発音する言葉があります。意味はなんと「疫病、伝染病」となります。このように正しい言葉が変質した言葉、間違った言葉、つまり正確ではない誤情報、偽情報、デマが私たちの考え方に問題をもたらしているのです。情報に惑わされるのではなく、その状況下に置いてどうすべきかをしっかりと学んでいく必要があります。だからこそ神の言葉に立つことが大切なのです。

■ 「三日の後によみがえらなければならない」 (マルコ 8:31)

ここで使われている「よみがえる」という言葉はクームです。創世記 4:8 カインは弟アベルを誘い出した。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。「襲いかかって殺した。」これが聖書の中で最初に使われたクームです。「よみがえる」とはまったく逆の意味を指し示す言葉になりますが、ヘブル語的解釈の視点では、「三日後まで殺されたままでは、三日間死んでいる」となり、言葉の強調点としては、よみがえることというよりもむしろ殺される、死ぬことにあります。イエス様は、ご自分がユダヤ人たちから「多くの苦しみを受け」「捨てられ、殺され」ることを強調して語っておられると考えられます。この様に、人は自分の置かれている状況や自分の考えと違うものを差別し排除する心があります。この人の愚かさがいつも人を死に追いやります。しかし、そのような人々の悪の計らいであっても神は復活という形で益とされるのです。

■ 「イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。」 (マルコ 8:32)

イエス様の話は、ペテロにとって想定外であり、到底理解できない受け入れられないものでした。怒りにも似たペテロの様子に対し、イエス様は言われます。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」このように痛烈な表現で「ペテロを叱って言われた。」のです。

・ペテロはイエスを「いさめた」

・イエスはペテロを「叱った」

この「いさめた」また「叱った」は、ヘブル語ではどちらも「ガーアル」という同じ言葉が使われています。つまり神がしようとしておられる事を人が叱ったのです。

この言葉は、創世記 37:10-11 でヨセフが自分が見た夢を兄たちに話したことにに対して父ヤコブが叱った所出てきます。兄たちはヨセフを妬み排除しました。ここには愛はありません。父は叱ったが心にとどめていました。

ヨセフの行為に対して叱っただけで愛していたからです。

■ 「弟子たちを見ながら」…言われた (マルコ 8：33)

「見る」[ナーヴァト]は創世記 15:5 「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」で本来、神がアブラハムに約束された御言葉を指し示します。「下がれ、サタン。」の「下がれ」は「スール」で「離れる、脇へ逃れる」という意味があります。しかしこの言葉は本来、「覆いを取り払って眺める」という意味で、創世記 8:13 六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。と同じ言葉なのです。ナーヴァトは天を見上げることを、このスールは逆に「地の面」地を見ることを指し示した言葉です。イエス様は弟子たちを見て「下がれ、サタン。(覆いを取り除きなさい)」と言われるのと同じ時に、天(神)のことこの地のことと両方の最善を尽くせと言われたのです。

■ 神のことを思わないで人のことを思っている (マルコ 8：33)

「神の国」のことを思わないで、人の国、人のことばかりを思う人、人間的な考え、尺度でしか物事を計れない人について話されます。人は自分がルールなので、理解することも、受け入れることもできません。覆いがかかって見えない状態スール「下がれ、」は、神のことを思う⇒人のことを思うということです。だからこそその「覆いを取り払って眺める」必要があります。

「神のこと」また「人のこと」[ダーヴァール]言葉という意味で、「神のこと」とは、神の語られる、神の御言葉のことです。創世記 8:15 神はノアに告げられた。8:16 「あなたは、妻と、息子たちと、息子たちの妻たちとともに箱舟から出なさい。8:17 すべての肉なるものうち、あなたとともにいる生き物すべて、鳥、家畜、地の上を這うすべてのものが、あなたとともに出るようにしなさい。それらが地に群がり、地の上で生み、そして増えるようにしなさい。」の神はノアに告げられた。が聖書の中で最初のダーヴァール(命令)です。その後の言葉全体にかかり、ダーヴァールに指し示された神のご計画、神の御言葉が「神のこと」です。だからこそ私たちはすべての人が平安に生きていく神の計画を信じて、追従して仕えていくことが大切なのです。

■ 失敗しても悔い改め神の前に戻ることに

私たちは自分がしてしまったことを後悔します。しかし神様が願っているのは、失敗をした時に後悔して自分を責めるのではなく、悔い改めと神の奇跡を見出すことです。だからこそ自分を変えることが出来る方である神様の元に戻る事が大切なのです。解決は神様にあるからです。

■ まとめ

キリストはムチに打たれ血だらけになる痛みを通り、十字架を背負いゴルゴダの丘を登って釘付けにされ死に向かって行きました。それはあなたの痛みを背負う為でした。だからこそ隣人を否定し排除する生き方ではなく、隣人が作り変えられる為に自ら十字架を負えるよう間違った判断をせず愛を持ってその人を見ましよう。神様はあなたを愛しています。そしてあなたが敵として見ている人も神様は愛しているのです。愛すべきものを敵と見なす覆いを取り除き、愚かになつたり教養のないものにならないようにしましよう。恐れや怒りからではなく神の平安を心に留め、正しい判断をしていくことが出来るようにいつも神様の前に戻りましよう

(要約者:西寄芳栄)

(2020年4月5日)